

☆波積ダム本体建設工事

現在、ダム本体のコンクリート打設と基礎処理などを着々と進めています。日中の暑い時間帯を避けるため、7月中旬から夜間のコンクリート打設を始めました。

ダム計画位置下流から上流を望む



R3.7.29ドローン写真【夜間・今岡工業・原工務所AV】



工事概要：堤高 H=48.2m
堤頂長 L=126.0m
堤体工 V=67,280m³

【完成イメージ】

ダム上流右岸側から下流を望む



R3.7.29ドローン写真【夜間・今岡工業・原工務所AV】

令和3年度波積ダム建設事業平面図



☆波積ダム展望台移設

ダムサイト右岸側に設置していた展望台は、今後の工事の支障となることから、100mほど下流に移設しました。移設に伴い、駐車場へ大型の事業概要説明看板を設置しています。展望台には「工事説明看板」や「ダムカード風フォトフレーム」を常設しており、ダム工事の様子を一望することができます。



設置状況



展望台からの眺め



駐車場

駐車場

展望台設置位置はQRコードを読み込んで確認してください。波積ダムHPへアクセスします。



☆波積ダム管理所の建築完了

波積ダム管理所の建築が完了しました。管理所に使用している瓦は、江津市特産の石州瓦を使用し、地域に馴染んだ建物となるように配慮しています。

今後、管理所に電気・水道を繋げる工事や外構工事（管理所周りの整備）などを行う予定です。



石州瓦

☆波積ダム本体建設工事 夜間コンクリート打設

夏期は、日中の気温が高い時間帯を外して、夜間にコンクリート打設を行います。
期間：令和3年7月中旬～9月中旬を予定

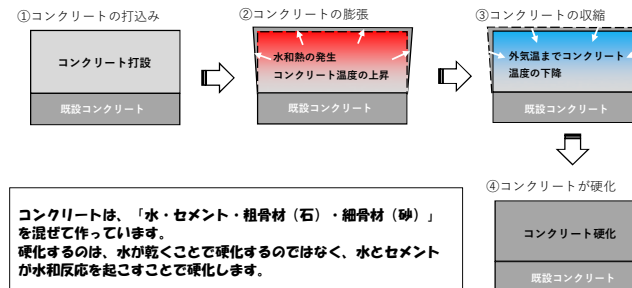


夜間打設の様子

☆曇中コンクリート対策

コンクリートは、硬化する際に、水とセメント等が水和反応し、反応熱（水和熱）が生じます。そして、コンクリートの温度上昇に伴い体積が膨張し、外気温まで温度が下がる際に収縮します。この体積変動が大きいため、ひび割れの発生率が高まることから、コンクリートの練上がり温度を高くしないことが重要となります。当ダムでは、曇中コンクリート対策として、コンクリートの打込温度を25℃以下とするため、右記の対策を行っています。

○コンクリートの硬化の流れ



コンクリートは、「水・セメント・粗骨材(石)・細骨材(砂)」を混ぜて作っています。硬化するのは、水が乾くことで硬化するのではなく、水とセメントが水和反応を起こすことで硬化します。

対策1】冷却水(4℃)の使用

- 骨材貯蔵設備で、冷水散水を行います。コンクリートに混ぜる骨材の温度を下げます。
- コンクリートを練混ぜる際に冷却水を使用します。冷却水を使用することによって、コンクリートの練上がり温度を下げます。

対策2】液体窒素の使用

対策1に加え、コンクリート製造設備の練混ぜ設備内に液体窒素(-194℃の気体)を噴射し、その気化熱によって、コンクリートの練上がり温度を下げます。

